

市政報告会

質疑応答



☎ 総務課秘書広報係
22・3111

9月28日から10月31日にかけて、合併以来13回目の「市政報告会」を開催し、市内11会場で648名が参加しました。

ことしは、財政状況や熊本地震に伴う復興の進捗状況、今後の市の取り組みを中心に報告しました。

各会場での主な質疑応答について、その一部を紹介します。

波野地区

Q 熊本地震の際に、ある家族が気になり、自宅

に向かったが、幸いなことに何ともなかった。その人は高齢の障がい者で、一緒に避難しようと伝えたが「避難所である波野保健福祉センターは遠い」と言われた。なかなか説得に応じず、「近くに一旦身を寄せましよう」とやすらぎ交流館に向かった。既に30数台の車があり、中には30〜40名、車中避難の人も含めると、

すごい人数であった。波野支所も駐車場が少なく、波野で災害が起きた時に駐車場問題は不安材料の一つである。私達も車で3日間寝泊まりした。やすらぎ交流館はトイレも外にあるので、利用協定を締結できれば不安解消につながると思う。

A 熊本地震では阿蘇市内で50カ所近くを避難所として開設。うち市の指定避難所を10カ所開設し、残りの40カ所近くは地域の方々が自主避難所として開設され

た。大きな災害になればなるほど、行政の手は届きにくくなる。実際に、職員の中にも家から市役所までの道が寸断され、職員全員が確実に参集できるとは限らない。今、行政として最も防災面で力を入れていることは、自主防災組織の充実強化であり、行政の支援が届くまでの間、地域の方々が助け合い、まずは1〜2日を乗り切っていたることが重要であると考え。高齢化社会を迎え、体の不自由な方など、「福祉避難所」の設置について協議を進め、実際協定を締結している施設もあるため、今回のような事態が生じたときには、支所に相談していただき、本庁の関係課と協議しながら迅速な対応に努めていきたいと考える。遠慮なく、情報をお寄せいただきたい。**【総務部長】**

Q 大蘇ダムの進捗と実証団地が2年で契約

終了となるが、その後の取組みについて聞きたい。もし、地権者が契約しなかった場合、入植している人が路頭に迷うことになる。そこで、市

は大蘇ダムの水を利用した波野地区の経済基盤である農業に対する取組みについて、どのように考えているのか。できれば、公募して入植者を募るなどの取組みを進めてほしい。

A 大蘇ダムは2020年4月が供用開始となっている。実際に水を利用するということは施設園芸になると思うが、経費負担や年齢的な後継者問題もあるため、地権者の方と個別にご相談させていただきたいと思う。**【経済部長】**

乙姫地区

Q 異常気象で今夏は非常に暑い日が続いた。全国的に学校へのエアコン導入

の動きがある中、阿蘇市はどう対応するのか。(報道では、阿蘇市の対応は遅れているような掲載記事があった。)

A 現状として、小中学校の保健室及び図書館等の一部にエアコンを設

置しているところであり、普通教室には設置していない。今年度は異常気象で教室内の温度も30℃を超えていたこともあり、現在、エアコン設置に向けて検討しているところである。なお、設置費用については、全国の例を見ると、かなり高額な費用がかかっている。文科科学省からの補助金は、補助率が3分の1以内となっているが、予算枠もあるため、実質的には工事費用の1割から1.5割の補助率にとどまっているのが現状である。また、エアコンは、夏場に限らず冬場の暖房にも使用できるため、来年度以降、小中学校全8校(山田小学校の統廃合後)への設置を検討したい。**【教育部長】**

Q 乙姫小学校が閉校しがはつきりしていない。乙姫

小学校は、人が一番集まりやすい場所であり、校区で夏祭りなどを実施している。調理室・理科室・低学年棟の施設は残し、2階建ての校舎は取り壊されると聞いているが、その時期はいつ頃か。また、

乙姫校区としては、公民館として活用させてもらいたい。

A 低学年棟については、現在、色々と使用していただいております。継続を考えている。体育館についても、現在改修中ではあるが、避難所等としての利活用も含めて、将来的にも残していくという

考えである。なお、グラウンドについては、グラウンドゴルフ等で利活用いただいているが、当該敷地全体の利活用計画については、老人ホームに一部売却したものの、残りの具体的な利用方法はまだ決まっておらず、現在、市有財産の全体計画の中で将来的な利活用について検討委員会を設けて協議を進めている。有効な利用目的等が決まれば、地元区長をはじめ、議会等に説明しながら整備を進めていく方針である。【教育部長】

黒川・役犬原地区

Q 「夢の湯」については、本年3月に男湯の屋根が崩落し、休館中であり、5

月中旬には地元住民の意見として黒川15行政区区長連名で要望書(早期再開)を提出した。9月議会頃に市から文書(回覧等)で回答すると言われていたが、未だに返答がなく、進行状況はどうなっているのか? また、交渉完了の目安はいつ頃を予定しているのか。

A 5月15日以降、所有者と4回の協議を行っている。市としては、市が所有する源泉で営業したいと話を進めている。現在も協議中であり、年内にあと2回ほど協議を行う予定である。その後、状況報告をさせていただきたい。【経済部長】

三田地区

Q 国民健康保険は広域連合になつていて、我々市民の保険料などに関するものはあるのか。

A 本年4月から熊本県で国民健康保険の財政を運営するという形になって

いる。将来的に、県は統一な料金を目指している。県内45市町村、高いところもあれば、安いところもあり、一度に統一保険料の設定は難しいと聞いている。保険料の統一化はいつ頃になるかは分からないが、方針としては、その方向で進むと思われる。保険料の課税も徴収も各々の自治体で行うため、市民の皆さんにとっては、運営主体が広域連合になったからと言って、特段の変わりはない。【市民部長】

Q 小倉遊水地については、30年度に完成見込みと聞いているが、進捗状況を教えてください。また、その周辺の市道の開通がいつ頃になるのか併せてお尋ねしたい。

A 地元の皆さんの協力をいただき、今年6月に池の機能としての供用を開始した。今でも現場付近では工事車両を見ると思うが、現在の工事は池本体ではなく、初期湛水地の一部を利用してグラウンドにしている。去年の市政報告会で、「できるだけ防

草対策をしてほしい」との要望が挙げられたので、法面をコンクリートのようなもので固めていく工事も引き続き行い、年度内を目途に工事を完了したいと考えている。また、市道についても、年度内には目途をつけたい。【県振興局土木工務二課長】

Q 新村方面の大角田橋(下の原区)の復旧工事は、下部工が行われているようだが、震災後2年半が経過し、非常に便利が悪く、地元にとっては主要道路であるため、1日でも早く完成してほしい。



今年中に開通予定の大角田橋

A 大角田橋については、非常に通行止めが長くなり、ご迷惑をお掛けしており申し訳ない。下部工は既に完了しており、現在、上部工を発注し工場で作成している段階にある。近々、上部工の架設工事を行い、本年中には開通する予定である。その後、市道今町鷲の石1号線に架かっている杉馬場橋の災害復旧工事が残っており、現在通行可能としながら工事をやっているが、大角田橋が開通した際には、しばらく通行止めにして工事を行う予定である。地域の皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、ご協力をお願いしたい。【土木部長】

狩尾地区

Q 熊本地震からの被災者住宅再建支援として、南阿蘇村が新築家屋を取得した翌年から固定資産税を4年間減免する方針を決定している。阿蘇市でも同様の支援措置を講ずるよう要望したい。土地はあっても自立再建できない人が多数いる。

A 国の制度として、半壊以上の被災により家を建て替えた場合、特例として4年間2分の1の法的な減免措置がある。南阿蘇村は、同時に残りの2分の1も4年間減免するということである。政策的なことにもつながるため、内部で協議したうえで、阿蘇市としてどう対応できるのか、結果を議会等でも報告したい。【総務部長】

A カルデラスーパーマラソンについては、早期再開を目指して関係者が集まって協議をしている。マラソンコースのスタート地点(南阿蘇村)が、まだ工事中であるため、場所の変更も含めて検討段階であり、コースの安全性も確認しなければならぬ。早く進めていくように、私の方からも伝えておく。【市長】

Q 熊本地震後、「阿蘇カルデラスーパーマラソン」は開催されていないが、阿蘇復興の目玉として来年から再開できないか。

Q 全国的に自治体病院を占める。地方の中核病院の役割としていくつかあると思うが、特に救急医療を担う役割は大きい。経営的に赤字でも必要性は感じている。赤字であったとしても公立病院の必要性を市議会や市民にもっと啓発すべきではないか。

A 地域の中核病院として、救急・へき地・小児医療など、いわゆる不採算医療は、地域にとって必要であるため、赤字を度外視して、担っている状況である。ただ、病院事業は企業会計として独立採算を目指すなければならない。公立病院は、公共性の追求と企

業としての経済性追及の二面性がある。今後、地域に必要な病院であることを市議会議員の方をはじめ、市民の皆さんにも広く病院の現状や、重要性、担う役割を啓発し、市民の皆さんの負託に答えられるような病院づくりを甲斐院長を筆頭に取り組んでいく。【医療センター事務部長】

Q 阿蘇市内と阿蘇市外の小中学校の学力の差はあるのか。

A 全国学力学習状況調査によれば、小学6年生と中学3年生の阿蘇郡市の平均は、全国平均に近い数値である。県の学力調査については、阿蘇市の小学校は平均以上、中学校はあと一歩となっている。【教育長】

永水・跡ヶ瀬・的石地区

Q 大正橋(的石区)と車帰橋の復旧の用途は。

A 大正橋は、今年度末の完成を目標としている

Q 阿蘇市民にとっても非常に大事な国道57号の復旧の用途は。

が、追加工法が必要となり、厳しい状況となっている。車帰橋については、掘削による再調査の結果、下部の杭に著しい損傷があることが判明し、今後対策工法の検討が必要なことから、竣工時期は明言できない。しっかりと調査を進めて国と協議していきたい。【県振興局土木部工務一課長】

A 国が所管している事業であり、細かな情報は入っていない。国土交通省のホームページから得た情報ではあるが、9月までに上部のネット設置などの崩落対策が完了したということである。現在、有人による下部法面工事に入っており、これらの工事と並行して、道路の復旧が行われている。阿蘇大橋前後の道路については、一部先行して復旧が進んでいる箇所はあるが、大分側と熊本側それぞれで河川の方に大きく崩落している箇所があり、工法の検討や崩落対策をしている

とのことで、国道57号の復旧時期については、まだ目処がたっていないと聞いている。【土木部長】

Q これまで既存の社会体育のスポーツクラブ等では、体育館使用料や電気料の減免措置を受けてきたが、小学校の運動部活動の社会体育への移行に伴い、来年度以降、電気料については減免対象外になると聞いた。これに対処するためには、子ども達の部活動費を上げざるを得ない状況になり、子ども達が入部してくれるのか心配である。また、従来から、地域の方が一生懸命、社会体育組織として支えてきたクラブ等では減免対象外であるのに対し、来年度から創設される「阿蘇っ子クラブ」については、電気料が減免対象であることは公平性に欠け、納得できない。

A 今回、部活動の社会体育への移行については、「阿蘇っ子クラブ」を中心にという考えが根底にあり、火の山スポーツクラブ等の指導者の協力を得るうえで



再開が期待されるカルデラマラソン